

研究報告

本学における保健師教育内容の評価

—本学を卒業した新任保健師のインタビュー調査から—

足立安正、土井有羽子

兵庫医療大学看護学部

Assessment of the Contents of Public Health Nurse Education at Hyogo University of Health Sciences

— Interview Surveys of Newly Appointed Public Health Nurses Who Graduated from Hyogo University of Health Sciences —

Yasumasa ADACHI, Yuuko DOI

School of Nursing, Hyogo University of Health Sciences

抄 録

平成23年の文部科学省「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」の最終報告を受け、兵庫医療大学においては平成24年度以降、「看護師課程と保健師課程の統合されたカリキュラム」から「選択制による保健師教育」に変更された。そこで、本研究では、統合されたカリキュラムにおける教育内容の課題を明らかにし、選択制による保健師教育の内容を検討することを目的とした。研究方法は、統合されたカリキュラムで学び、本学卒業後に自治体保健師として就業した新任保健師を対象に、フォーカスグループインタビューを行い、質的記述的に分析した。分析の結果、本学の保健師教育における統合されたカリキュラムの科目ごとの教育内容の課題として、地域看護学概論では【科目の主旨がわからない】【保健師とその仕事内容がわからない】【抽象的な授業内容で理解しにくい】の3つのカテゴリーが抽出された。また、地域看護学援助論では【学習内容の重要性を理解できない】【保健師による支援内容が理解しにくい】【子どもの発達と評価方法がわからない】の3つのカテゴリーが抽出された。地域看護学演習では【対象者の生活を支援する視点がない】の1つのカテゴリーが抽出された。地域看護学実習では【実習生として求められる礼儀や行動を身につける】の1つのカテゴリーが抽出された。

本学の保健師教育においては、教員の保健師としての経験に基づいた具体的な保健師活動や視点を教授することによって、学生の学習内容の理解を助けるとともに、科目間のつながりを考えて学習を積み上げていくことのできる教育内容を整える必要性が示唆された。

キーワード：保健師、保健師教育、教育内容

Abstract

After the "investigative commission on university training programs for nursing personnel" of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology submitted its final report in 2011, Hyogo University of Health Sciences changed its "Integrated curriculum of Nursing and Public Health Nurse courses" to "Elective Public Health Nurse education" starting in the 2012 school year. The objective

of this study is to clarify the problems of educational content in the integrated curriculum, and to consider the contents of an elective Public Health Nurse education. Researchers conducted focus group interviews with newly appointed municipal health nurses who studied under the integrated curriculum at Hyogo University of Health Sciences and successfully graduated. After qualitative descriptive analysis, we extracted problems with the educational contents of each integrated curriculum subject in the university's health nurse education. For the Introduction to Local Nursing Study, 3 categories were extracted; "Cannot understand the idea of the subject", "Cannot understand what health nursing and its tasks are", and "Difficult to understand the lesson content because it is abstract". For Local Nursing Support Theory, another 3 categories were extracted; "Cannot understand the importance of the lesson content", "Difficult to understand the content of health nurses' support", and "Cannot understand the development of children and the assessment method". 1 category was extracted from Local Nursing Study Exercise; "Not having the viewpoint of supporting subjects' life". For Local Nursing Study Practice, there was 1 category extracted; "Obtaining courtesy and behavior required as a trainee".

These results suggest that in the university's health nurse education, it is necessary for educators to organize the content by teaching detailed health nurse activities and a viewpoint based on their experiences to help students' understanding of the subjects as well as accumulating knowledge by considering the connections between different subjects.

Key words : Public Health Nurse, Public Health Nurse education, content of education

I はじめに

兵庫医療大学（以下、「本学」という）は平成19年度の創立から10年目を迎え、看護学部では6期生までが卒業し、卒業生の多くが医療機関に看護職として就業している。一方、少数ではあるが自治体に就業し、保健師として活動している者もいる。

本学における保健師の養成は、平成23年度入学生までは、看護師課程と保健師課程の統合されたカリキュラムで行われていた。この統合されたカリキュラムについては、“保健師としての教育内容や実習の薄さという教育に関わる問題”と“就業する保健師の質の問題”が指摘されており¹⁾、平成21年の保健師助産師看護師法の改正により保健師教育の期間が“6ヶ月以上”から“1年以上”に延長されることとなった。これを受け、文部科学省は平成23年3月の“大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会”の最終報告において、学士課程での保健師教育について、今後看護師教育のみの教育課程とするか、保健師教育を含めた教育課程とするか、あるいは希望する学生が保健師教育を選択できる教育課程とするかは、各大学が自身の教育理念・目標や社会のニーズに基づき、選択できるものとする²⁾とした。これにより、平成24年度入学生からは、大学で保健師教育を全員必須とするか、

一部の学生とするかはそれぞれの大学に委ねられることとなった³⁾。そして、本学においては、平成24年度入学生からは選択制による保健師教育を実施することとなり、より高度で実践的な支援技術を講義や演習・実習を通して学ぶことになった。一方、新任期の保健師の実践能力の低下や公衆衛生の視点の希薄化などの課題は引き続き問題視されており、現任教育の充実が求められているが、本学においても選択制による保健師教育の実施により、質の高い保健師を養成することが求められている。

そこで、本研究では看護師課程と保健師課程の統合されたカリキュラムで学び、本学卒業後に自治体保健師として就業した者の新任期における保健師活動を踏まえて、統合されたカリキュラムにおける保健師教育の内容についての課題を科目ごとに明らかにする。このことによって、本学における選択制による保健師教育カリキュラムにおいて、保健師として実践の場で活用できる知識や技術を効果的に学ぶことができる教育方法や内容を検討することを目的とする。

II 方法

1. 研究対象

本学を卒業して、自治体に就業している新任期（就

業後2～3年)の保健師3名とし、該当する対象者全員から研究協力を得ることができた。なお、新任期の定義については、佐伯らの研究によると就業期間1～5年としている⁴⁾が、本研究では、本学における保健師教育について科目ごとの内容を想起する必要があることから、就業後3年までとした。また、保健師としての実践活動を踏まえた上でのインタビューであり、1年目は保健師として自立した活動が実践できないと判断したことから研究の対象を就業後2～3年とした。

2. 本学における保健師教育

本学の看護学科は1学年の定員を100名で構成されている。保健師養成については、3年次末に保健師国家試験受験資格の取得を希望するもののうち30名を選抜する保健師選択制を採用している。

保健師養成課程は2年次後期から始まる講義および演習科目として開講される(表1)。なお、本研究の

対象者は、大学4年間で看護師と保健師の国家試験受験資格を取得できる看護師課程と保健師課程の統合されたカリキュラムで学んだ者である(表2)。

3. データの収集

データ収集は平成27年3月に実施した。対象者には電話による口頭での説明(目的や方法等)を行い協力の依頼をした。その後、文書により研究内容の周知徹底を図り、再度の電話連絡によって協力の内諾を得た。研究協力を内諾した対象者には、研究者より研究目的や方法、倫理的配慮について説明をした上で、フォーカス・グループ・インタビューを行った。本研究においては科目ごとの内容を想起する必要があり、グループの他の人が言ったことに反応できるため、フォーカス・グループによって想起しやすく意見が出しやすくなる考えた。また、所属が異なれば業務内容も異なるため、保健師としての実践活動を踏まえた上での

表1. 本学における公衆衛生看護学教育(新カリキュラム)の主な科目と教授内容(平成27年度)

学習時期	授業科目		内 容
2年 後期	公衆衛生看護学概論	必修	(講義) 公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化、公衆衛生看護学の概念と理論、ヘルステアシステムと地域保健サービスの仕組み、ヘルスプロモーション、保健・医療・福祉制度の概要
3年 前期	公衆衛生看護活動論	必修	(講義) 発達段階・健康レベル別の公衆衛生看護活動の概要、関連する法制度と政策
3年 前期	公衆衛生看護活動方法論	選択	(講義) 支援技術(家庭訪問、健康相談、保健指導)の方法、発達段階・健康レベル別の公衆衛生看護活動の実際 (演習) 地域看護診断の展開(情報収集からアセスメント)
3年 前期	産業・学校保健活動論	選択	(講義) 歴史と現状、制度とシステム、対象と健康課題、保健活動の展開
4年 前期	公衆衛生看護方法論演習	選択	(講義) 乳幼児健康診査、新生児訪問指導、感染症保健活動(特に結核)、多胎児をもつ親への支援、特定健康診査・特定保健指導 (演習) 乳幼児健康診査における問診、新生児訪問指導の実際、難病事例に対する家庭訪問計画立案、結核事例に対する家庭訪問計画立案、特定保健指導の計画立案・指導、健康教育の計画立案・実施
4年 前期	公衆衛生看護展開論演習	選択	(講義) 地域の概念、コミュニティパートナーモデル、データの収集と読み取り、地域特性の明確化、健康課題、地区踏査・インタビュー調査 (演習) 地域看護診断の展開(情報収集・アセスメント・地域特性・健康課題・計画立案)
4年 前期	公衆衛生看護管理論	選択	(講義) 公衆衛生看護管理の基本、組織運営管理、事業・業務管理、人事管理、人材育成、地域ケアシステムの構築、健康危機管理(児童虐待・災害)
4年 後期	公衆衛生看護学実習	選択	保健所・保健センターの保健事業に参加し、展開プロセスを理解する。保健所・保健センター保健師の主要な業務と支援技術を理解する。保健師の主要な技術(家庭訪問・健康教育・問診)を展開する。公衆衛生看護展開論演習において取り組んだ地域看護診断をもとに、計画を実施・評価し、健康課題に対する支援の方略を検討する。

インタビューにおいては、対象者間での情報交換にもなり討議により内容が深まると考えた。以上のことから、本研究では、フォーカス・グループ・インタビューによりデータの収集を行った。

インタビューは公衆衛生看護学の教員のうち2名が、司会者と観察者となり半構成的面接法により実施した。インタビュー内容は研究対象者の承諾を得て、ICレコーダーに録音した。インタビュー項目は、①基本情報（性別、保健師就業年数、所属機関および部署、仕事の内容）、②本学での学びで印象に残っていること、③保健師活動を行うなかで、本学での学びで役立っている内容、④本学での教育内容として、もっと必要であると感じたことであり、②～④については科目ごとに質問した。

4. 分析方法

インタビューは録音して逐語録におこし、本学の保健師教育における教育内容の課題と考えられることについて表現されている文脈を科目ごとに抽出した。文脈を抽出する際は、記述されている文章を一文一意味になるように、文脈に注意しながら区切り、文脈単位を決定した。抽出した文脈単位ごとに意味内容を読み

取り、類似性を検討しながら科目ごとに類似する文脈を集めサブカテゴリーを抽出し、サブカテゴリーの意味内容を示すネーミングを行った。さらに、類似するサブカテゴリーを集めカテゴリーを抽出し、カテゴリーの意味内容を示すネーミングを行った。分析は保健師活動経験をもつ2名の研究者で行い、解釈の偏りを防ぐとともにデータ解釈の妥当性の確保に努めた。

5. 倫理的配慮

研究対象者には、研究趣旨・目的・方法、研究協力の自由意思の保証、得られた情報の使用範囲と管理、匿名性の保証などを文書および口頭で説明し、同意書を交わした。本研究計画については、兵庫医療大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号第14040号）。

Ⅲ 結果

1. 対象の基本情報

インタビューの対象者は3名（全員が女性）で、所要時間は1時間41分であった。対象者の基本情報を表3に示す。

表2. 本学における地域看護学教育（旧カリキュラム）の主な科目と教授内容（平成22～23年度）

学習時期	授業科目	内 容	
2年 後期	地域看護学概論	必修	(講義) 地域看護学の概念と理論 保健師の活動理念、活動体制上の特徴および関連する法制度、地域看護管理 (演習) 地域看護診断の目的と方法の理解およびその展開
2年 後期	地域看護援助論	必修	(講義) 学校保健、産業保健、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病・障害者保健、感染症保健、健康危機管理、災害保健における看護活動 (演習) 主要な個別・集団支援技術(保健指導、健康相談、健康診査、グループアプローチ)
3年 前期	地域看護学演習	必修	(講義) 集団支援技術(健康教育の理論とプロセス) (演習) 主要な個別・集団支援技術(家庭訪問、健康教育) 地域看護診断(情報収集・アセスメント・健康課題の抽出)
3年 後期 4年 前期	地域看護実習	必修	保健所・保健センターの保健事業に参加し、展開プロセスを理解する。保健所・保健センター保健師の主要な業務と支援技術を理解する。地域看護学演習において取り組んだ地域看護診断をもとに、過程をさらに展開する。

表3. 研究対象者の基本情報

N=3

所属	市町	2
	中核市	1
保健師就業年数	2年目	3
担当業務	成人	1
	担当地区全体	2

2. インタビュー結果

本学の保健師教育における教育内容の課題と考えられることについて表現されている文脈を科目ごとに抽出し、36コード、13サブカテゴリー、8カテゴリーが明らかとなった。得られたカテゴリーを【 】、サブカ

テゴリーを《 》、生データを「 」で表しながら述べ、一覧を表4から7に示す。

- 1) 地域看護学概論における教育内容の課題
地域看護学概論では地域看護学の概念や理論、保健

表4. 地域看護学概論における教育内容の課題

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出した文脈
科目の主旨がわからない	科目の主旨がわからない	最初になんとか保健師の授業なんやろなと思って受けたんですけど、たぶんあんまりピンときてないまま授業を受けてる子の方が多かったと思う。何のために神戸市とか調べているのか目的が。
	保健師をイメージできない	看護師とは違うんやなという感じはわかるんやけど。 (保健師についての)イメージがないままでした。 イメージが、特に看護師さんになりたいと思って入ってきている人たちは、特に保健師って何っていう人が多いかな。 助産師も看護師もイメージがつくけど、保健師っていうのはつかへんかな。 (教員の経歴)そういう説明もなかったから、さらにイメージがわからなかった。
保健師とその仕事内容がわからない	保健師の仕事の内容がわからない	その時は保健師さんっていうのが普段どんな仕事をしててとかがイメージできないままきてて。 一番最初に保健師ってまず知ってるっていう。どんな仕事してるか知ってるっていう魅力を知ってからの方が入りやすい。 実際に保健師さんってどういう仕事をしててどんなものなのかというのは知らなかった。 そこにいるのが保健師さんというのは知ってたけど、何をしているかは全然知らなくて。 先生たちがどういう仕事をしてたかみたいなのも、このときとか全然わからなくなかった。 一日の流れみたいなビデオとか見たかった。 一番最初に先生がどんな仕事をしてきたかとかの話はしていただけるとイメージはつくし。
抽象的な授業内容で理解しにくい	抽象的な授業内容で理解しにくい	保健師ってめっちゃ法律やんか。それをもとにあるから。 まず、保健師とはみたいな、難い内容じゃなくて。

表5. 地域看護学援助論における教育内容の課題

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出した文脈
学習内容の重要性を理解できない	学習内容の重要性を理解できない	めっちゃ重要なことばかりやなって思います。 あんまり言われても、今だからこそわかるけど、このときには多分あんまり理解できていないだろう。
	保健師による支援内容がイメージと異なる	保健指導って指導するっていうイメージがあったけれども、そうじゃないんだなというのは。 具体的には実際にどういうふうにしてはるというのが、そこまで具体的にはイメージできていなかったですね。援助論でも。
保健師による支援内容が理解しにくい	保健師による支援内容の実際が捉えにくい	個別支援技術とか集団支援技術とか、言葉ではわかるんですけど。 実際にはどのくらいの人を集団としているのか、とかそういうところまで、個別支援って実際どういうふうにしてはるのかとか、どういう場面で使うのかということまではわからなかったですね、授業では。 (援助論の内容が理解できず)何やってんねやって感じ。
子どもの発達と評価方法がわからない	子どもの発達がわからない	その発達っていうのを、やっても全然わからなくて ここで発達、重要やと思うんですけど。言うてもふーんぐらいにしか。
	発達の評価指標と捉える内容が結びつかない	K式とかこれやんねんて言われてても、それで何を見ているのかっていうのが実際に結びついてなくて。

師の活動理念、関連法規などを講義形式で教授される。対象者は「たぶんあまりびんときていないまま授業を受けている子の方が多かったと思う」といった【科目の主旨がわからない】ことが課題として挙げられた。

【保健師とその仕事内容がわからない】は《保健師をイメージできない》《保健師の仕事の内容がわからない》の2つのサブカテゴリから構成された。「看護師とは違うんやなという感じはわかるんやけど」や「そういう説明もなかったから、さらにイメージがわからなかった」というように、《保健師をイメージできない》状態で授業を受けており、その結果、「その時は保健師さんっていうのが普段どんな仕事をしててとかがイメージできないままきてて」と話すように、この科目では《保健師の仕事の内容がわからない》状態のまま、保健師の仕事の内容を理解することや、保健師という職種をイメージすることが難しいということが明らかになった。

【抽象的な授業内容で理解しにくい】として、地域看護学概論の授業内容については、「まず、保健師とはみたいな、難い内容じゃなくて」というように、《抽象的な授業内容で理解しにくい》と感じていた。

2) 地域看護援助論における教育内容の課題

地域看護援助論では産業分野や学校分野といった保健師の活動の場の違いや、母子や成人などの保健師が

働きかける対象の違いによる保健師活動を教授し、その中で一部の支援技術を演習形式で学ぶこととなる。地域看護学概論とは異なり、保健師の活動を伝える講義内容ではあるが、「あんまり言われても、今だからこそわかるけど、このときには多分あんまり理解できていないだろう」というように、講義内容の中でどこが重要なのか、講義内容が実際の保健師活動においてどのように重要な意味をもつのかというような【学習内容の重要性を理解できない】課題が挙げられた。

【保健師による支援内容が理解しにくい】は《保健師による支援がイメージと異なる》と《保健師による支援内容の実際が捉えにくい》の2つのサブカテゴリから構成された。「保健指導って指導するっていうイメージがあったけれども、そうじゃないんだなっていうのは」というように、地域看護学概論で得られた保健師の支援内容のイメージが、この科目を受講して違うことがわかり、《保健師による支援内容がイメージとは異なる》と感じていた。また、「具体的には実際にどういうふうにしてはるとというのが、そこまでイメージできていなかったですね。援助論でも」「個別支援技術とか集団支援技術とか、言葉ではわかるんですけど」というように、保健師活動の実際を教授する科目であっても、《保健師による支援内容の実際が捉えにくい》という意見もあり、本科目の教育内容では、保健師がどのような支援をするのかを理解することが

表6. 地域看護学演習における教育内容の課題

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出した文脈
	支援技術の手技だけを学ぶ	どっちかっていうと、この手技をやるみたいな演習だったので。本当に手技のことだけで、この子がどれだけ成長しているとか、ちっちゃいなりにいい伸び方ですよとかそういうところ。
対象者の生活を支援する視点がない	対象者の生活をイメージできずに演習に取り組む	実際に、シートみたいなのを敷いて赤ちゃんがいてというところなんで、実際の家っていうのをイメージして演習できたかというところ。皆6人ぐらいでやってたし、こんなかなって感じで。家にいくと、色々あるじゃないですか。家だと。そういうところまでイメージしてできてはなかった。これこそ映像で。そういう実際の映像をみられたらすごくイメージ。ポンとそこだけ抜き取ってやった記憶が。
	保健師としての考え方や視点を学んでいない	どこ見なきゃいけないとか、そういうところはなかったね。

表7. 地域看護実習における教育内容の課題

カテゴリー	サブカテゴリー	抽出した文脈
看護学生として求められる礼儀や行動を身につける	看護学生として求められる礼儀や行動を身につける	実習生を受け入れる側になったことで思うのは、礼儀というか大学によってすごく違うんだなっていうのは。挨拶の仕方であったりとか、テキパキ動いている様子とか、自分が見る側になったときに、そこはきちっとしている方が印象が。

難しいという課題が挙げられた。

【子どもの発達と評価方法がわからない】では、「その発達っていうのを、やっても全然わからなくて」という《子どもの発達がわからない》に加え、「K式(発達検査)とかこれやんねんでって言われても、それで何を見ているのかっていうのが実際に結びついていなくて」というように、《発達の評価指標と捉える内容が結びつかない》といったサブカテゴリーから構成された。

3) 地域看護学演習における教育内容の課題

地域看護学演習では、地域看護援助論での場や対象ごとの保健師活動を踏まえて、その保健師活動で用いられる具体的な支援技術を講義と演習で学ぶこととなる。この科目では【対象者の生活を支援する視点がない】という課題が挙げられ、《支援技術の手技だけを学ぶ》《対象者の生活をイメージできずに演習に取り組む》《保健師としての考え方や視点を学んでいない》の3つのサブカテゴリーから構成された。

「どっちかっていうと、この手技をやるみたいな演習だったので」という《支援技術の手技だけを学ぶ》実態があり、「実際に、シートみたいなのを敷いて赤ちゃんがいてというところなんで、実際の家っていうのをイメージして演習できたかという」とや「家に行くと、色々あるじゃないですか。家だと。そういうところまでイメージしてきてはいなかった」というように《対象者の生活をイメージできずに演習に取り組む》こととなっていた。そのため、「どこ見なきゃいけないとか、そういうところはなかったね」といった《保健師として考え方や視点を学んでいない》というように感じていた。

4) 地域看護実習における教育内容の課題

地域看護実習では学内で学んだ保健師活動に必要な知識や支援技術を、実際の保健師活動に触れる中で深めていくとともに、地域看護学演習で取り組んだ地域看護診断を展開させる場でもある。ここでは、本学の保健師教育において改善すべき課題は抽出されなかったものの、「実習生を受け入れる側になったことで思うのは、礼儀というか大学によってすごく違うんだなっていうのは」「挨拶の仕方であったりとか、テキパキ動いている様子とか、自分が見る側になったときに、そこはきちっとしている方が印象が」というように、【実習生として求められる礼儀や行動を身につける】という今後も継続して取り組むべき課題が挙げられた。

IV 考察

1. 保健師教育の内容についての課題とその対応

ここでは、本学における統合されたカリキュラムでの保健師教育の内容について、課題を科目ごとに考察するとともに、それを選択制の保健師カリキュラムにどう活かすかを考える。そして、最後に科目間や保健師教育の科目全体の課題についても考察する。

1) 地域看護学概論

学生は、地域看護学概論において《科目の主旨がわからない》と感じていることがわかった。「科目の主旨」すなわち授業概要や教育目標、到達目標などはシラバスに記載され、学生はそのシラバスを読んで受講しているはずである。しかし、シラバスに記載しておくだけでなく、当該科目の初回の授業において、概要を説明し、同意を得ること、つまり、授業担当者が実際に説明することで、その場で契約を結ぶことが大切であるとされている⁵⁾。また、科目の枠組みを体系的に整理し、一つひとつの授業に結び付けていくことが「わかりやすい授業」である⁶⁾ことから、初回の授業においては、シラバスに記載された事項を確認するとともに、科目全体の構成や次の年次以降の科目とのつながり、保健師活動との関連などを伝え、学生にとってわかりやすく、受講したくなるような工夫が必要であると考える。

また、《保健師をイメージできない》状態のまま授業を受け、その結果として《保健師の仕事の内容がわからない》状態のまま本科目の単位を取得している学生がいることが明らかになった。綾部らの研究でも、学生は保健師教育課程の入り口で最も基本的な保健師や保健師活動のイメージづくりが難しいと述べており⁷⁾、本研究においても同様の結果が得られた。現在、新任保健師でさえ、保健師が何をする者なのか十分にわからないままに資格を取得している実態がある⁸⁾と指摘されており、保健師職に対する理解を促す教育内容は保健師教育の初期の段階で必要であると言える。特に、地域看護学概論については《抽象的な授業内容で理解しにくい》と捉えていた。概論科目で扱われる抽象的な保健師活動の理念や価値観は⁹⁾、学生にとっては捉えにくく、理解しにくくなってしまふ。したがって、地域看護学概論に続く地域看護援助論の内容を切り離してしまうのではなく、援助論で教授する保健師活動を用いて抽象的な内容を説明するなどの工夫が必要であろう。そうすることによって、保健師の仕事の

内容を知る機会になり、保健師をイメージできることにもつながると考える。

2) 地域看護援助論

【学習内容の重要性を理解できない】という課題は、授業の中でどこが重要なのかというように、地域看護学概論でも挙げられた構造化して学生に説明できていないことと、「あんまり言われても、今だからこそわかるけど、このときには多分あんまり理解できていないだろう」というように、地域看護学概論の中で保健師活動のイメージができていない状態で授業を受けていることによる影響が考えられる。同様に【保健師による支援内容が理解しにくい】という課題も保健師活動のイメージがないことが影響していると考えられる。保健師教育には、理論学習と臨地実習による体験的学習との統合が重要である¹⁰⁾との指摘もある。「地域看護学概論と地域看護援助論による知識の獲得」から「地域看護学演習による支援技術の獲得」、そして「地域看護学実習による統合」という学習の積み上げ方ではなく、地域看護学実習の一部を地域看護学概論と地域看護援助論の間に持ってくることによって、保健師活動のイメージをつくるとともに、学内で得た知識が実際の保健師活動とどのように関係するのかを学習する機会になるのではないだろうか。

頭川らの研究によると、新任期の保健師が最も困難を感じることは、相談の際の知識・技術不足¹¹⁾であり、若杉らによると、新任保健師は母親との関わりを通して育児についての知識と相談技術を身につける必要性に気づく¹²⁾ことが明らかになっている。特に、新任期の保健師が最も戸惑うのが母子保健業務であり、具体的には乳幼児健診や電話相談での対応や、発達のフォローの時期や方法について困難を感じていた¹¹⁾。本研究においても、「子どもの発達がわからない」「発達の評価指標と捉える内容が結びつかない」といった【子どもの発達と評価方法がわからない】課題が挙げられた。したがって、子どもの発達やその評価方法、育児に関する知識を教授する必要があると考えるが、その知識が保健師活動のどのような場面で必要になるのかといったことや、知識だけでなく具体的な支援技術を学ぶ機会がないと、知識の教授だけでは理解して支援技術として提供するには難しい。新任期保健師は基礎教育内容と実践とのギャップを感じ、基礎教育において実践で必須の技術を体験する機会の設置を求めている¹³⁾との指摘もあることから、子どもの発達の理解と評価方法については、乳幼児健診における問診や育児

相談の場面を学内での演習として取り入れたり、臨地実習での見学や一部体験ができるような実習内容にしていくことが望まれる。

なお、今回の調査では、選択制の保健師カリキュラムである「産業・学校保健活動論」と「公衆衛生看護管理論」に関連する課題は抽出されなかった。これは、今回の研究対象者が自治体に就業しており、産業・学校保健活動の実態を踏まえることが困難であったことが影響していると考えられる。また、公衆衛生看護管理論については、研究対象者が就業して2年目の保健師であり、管理業務について意識する機会が少ないことが影響していると考えられる。

3) 地域看護学演習

演習科目では、「対象者の生活をイメージできずに演習に取り組む」ため、結果的に「支援技術の手技だけを学ぶ」ことになり、「保健師としての考え方や視点を学んでいない」と感じていた。そのため、【対象者の生活を支援する視点がない】という課題が挙げられた。片岡らは実習における学生の学びの特徴として、生活者としての対象理解が最も多かったことを報告¹⁴⁾しており、生活を支援する視点については実習において効果的に学習できると期待されるが、行政機関の保健師管理職者は、「支援対象が地域で生活する住民であることに目を向けられる」大切さを認識し、保健師には地域で生活する人を支える役割があることを基礎教育で伝えていく必要性を感じている¹⁵⁾ことから、学内の演習科目においても個別事例を生活と結び付けて理解し健康問題を捉える¹⁶⁾事例検討をするなどの演習をすることが望ましいと考える。また、地域看護診断では2次資料のみで地域の健康課題を抽出するのではなく、その地域で生活する住民に対する家庭訪問結果を踏まえて健康課題を抽出するようにすることによって、個人・家族レベルの健康生活実態の分析から、コミュニティレベルで問題解決が必要なヘルスニーズを見出す¹⁷⁾ことができ、対象者の生活を支援する視点を教授することが可能になると考える。

4) 地域看護学実習

柳川らは、現代の看護学生の特徴として「家族以外の人へのあいさつが減少していること」、「社交性が低下し、自分から人に関わっていく態度が消極的であること」を報告している¹⁸⁾。このような礼儀や行動、態度が実習においても表面化しているためか、【看護学生として求められる礼儀や行動を身につける】ことが

課題として挙げられた。これは実習においてのみというよりは、実習場面で顕在化しやすいだけであり、学生と関わるあらゆる場面で留意すべきことであろう。

5) 科目間や保健師教育の科目全体について

学士課程による看護師の養成としては、学士力と看護実践能力とが統合された成果を4年間で身につけるべきとされている²⁾。つまり、看護専門分野の科目だけでなく、教養科目も含めた教育の質の保証が必要であり、科目それぞれが関連し合い、学生は科目ごとに学習を積み上げていくことによって、統合された成果を身につけることができると考えられる。保健師教育においても同様に、学生の学修準備状況に合わせたカリキュラムを考慮すべきであり、カリキュラム全体をみて効果的な学びが得られるような科目の内容を考える必要がある。

本研究では、保健師教育の始まりである地域看護学概論の段階では、学生は保健師に対するイメージを持っていない状態で履修しており、その次の地域看護援助論に至っても同様の課題を抱えていた。これは、科目ごとに学習を積み上げることの妨げになり、また、学生の学修準備状況に合わせた教育内容になっていなかった可能性がある。今後は、教員の実践経験を学生に伝えたり、早い段階で保健師の活動を見学できるような実習を組み入れるなどの工夫が必要であると考えられる。

2. 本研究の限界と課題

本研究の対象者は本学の卒業生であり、データ収集時において司会者と観察者を本学教員が担っていたため、教員と元学生との関係上、インタビューに対する回答に偏りが生じている可能性がある。

本研究の対象者である本学卒業生のうち保健師として就職している者は人数が少なく、対象が限られてしまい、今回の研究においても1回のグループインタビューのみの情報であった。したがって、得られた情報は本学の保健師教育の一端を表してはいるが、一般化することは困難である。しかし、教育内容の課題や方法の検討について、教育を受けた側の情報から検討するという点において、得られた知見は有用な資料であると考えられる。今後も同様の研究を継続し、得られた知見を活用することで、より高い実践能力をもった保健師の養成に努めていきたい。

V 謝辞

本研究のインタビューにご協力いただきました保健師様に深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 村嶋幸代. 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望(1) 保健師教育の問題点と日本公衆衛生学会「公衆衛生看護のあり方委員会」の活動. 日本公衆衛生雑誌. 2009, vol.56, No.9, p.692-696.
- 2) 文部科学省. 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afiedfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf, (参照2016-07-01)
- 3) 播本雅津子. 地域看護学と保健師教育. 看護と情報. 2012, vol.19, p.3-7.
- 4) 佐伯和子, 平野かよ子, 宮崎美砂子他. 保健師指導者育成プログラムの開発. 厚生労働科学研究補助金(地域健康危機管理研究事業)平成17~19年度総合研究報告書. 2008, p.1-9.
- 5) 佐藤浩章. 大学教員のための授業方法とデザイン. 東京, 玉川大学出版部, 2010, 148p.
- 6) 新井英靖, 荒川真知子, 池西静江, 石東佳子. 考える看護学生を育む授業づくり 意欲と主体性を引き出す指導方法. 東京, 株式会社メダカルフレンド社, 2013, 223p.
- 7) 綾部明江, 富岡実穂, 木下由美子. 保健師志望学生が望む保健師教育のあり方—A大学4年生の意見を通して—. 茨城県立医療大学紀要. 2012, vol.17, p.51-58.
- 8) 森岡幸子. 保健師教育の現状と課題: 保健師学生、保健師を受け入れている立場から. 公衆衛生. 2010, vol.74, No.7, p.576-579.
- 9) 横山美江, 松本珠実, 藤山明美ほか. 保健師教育の質を保証する地域看護学実習モデル構築: 4単位実習モデル. 保健師ジャーナル. 2012, vol.67, p.226-234.
- 10) 末永カツ子, 瀬川香子, 鈴木和広ほか. 大学における保健師教育に関する考察—地域看護学実習の展開過程と学生の学びを通して—. 東北大学医学部保健学科紀要. 2007, vol.16, No.2, p.69-79.
- 11) 頭川典子, 安田貴恵子, 御子柴裕子ほか. 学士課程卒業後の保健師が新任期に感じる困難と対処状況. 長野県看護大学紀要. 2003, vol.5, p.31-40.
- 12) 若杉里実, 安田貴恵子. 新任保健師1年目の体験—母子保健事業での住民との関わりに焦点を当てて—. 日本地域看護学会誌. 2011, vol.13, No.2, p.61-68.
- 13) 塩見美抄, 牛尾裕子. 兵庫県における保健師の臨床研修に必要な内容と体制—新任期・中堅期保健師のニーズをもとに—. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要. 2012, vol.19, p.55-68.
- 14) 片岡三佳, 普照早苗, 松下光子ほか. 地域基礎看護学実習終了後のレポート分析からみた学生の学び. 岐阜県立看護大学紀要. 2008, vol.8, No.2, p.3-10.
- 15) 平野美千代, 佐伯和子, 上田泉ほか. 行政機関の保健師に求

- められる政策に関する能力と必要な保健師基礎教育の内容
市町村に勤務する保健師管理者への面接調査から. 日本
公衆衛生雑誌. 2012, vol.59, No.12, p.871-878.
- 16) 村嶋幸代. 保健師養成に求められる教育 教育の立場から.
インターナショナルナーシングレビュー. 2006, vol.29, No.5,
p.32-36.
- 17) 牛尾裕子, 松下光子, 飯野理恵. 公衆衛生看護教育を担当す
る大学教員が「地区診断」の教育において重視していた教
授内容. 日本地域看護学会誌. 2014, vol.16, No.3, p.83-89.
- 18) 柳川育子, 矢吹明子. 現代看護学生の生活及び気質の特徴
第2報(次元別解析) —1987年, 2000年及び2009年の比較—.
京都市立看護短期大学紀要. 2011, vol.36, p.61-68.